

企業の研究開発 実例を挙げて

1. 技術開発の重要性

公共部門が多い土木建設業にも技術力がないと生き残れない状況が生まれている。入札制度とも関係するが、どこでもだれでも作れる構造物という風習が消えてきた。コストダウンや環境保全に役立つなら随意契約でも発注されるようになってきた。

2. 企業における技術開発

- ・ 技術的に優れているというイメージ
- ・ 実際技術が優れていることが大切
- ・ マーケットに新しく入って行く時には新技術がないとむづかしい

3. どのように新技術の開発を決めているか

- ・ マスコミや学会で話題になっている技術について営業・研究所と相談して部門長が予算をとり開発を決定する。
- ・ 開発を提案するのは、設計部門長や部門の構成員または営業であることが多い時々社長からのトップダウンの場合もある。
- ・ 売上の何パーセントは必ず開発に廻すと決めている（ハイテク企業に多い）

4. ある企業の開発について（例題をパワーポインターで説明する）

- 1) 曲面合成版式ケーソンの開発
- 2) 新環境対応型防波堤・護岸の開発

5. 開発に対する姿勢

- 1) いつも新技術に興味をもつ
- 2) 自分に近い企業の情報をつかむ
- 3) 自分が開発長のような気持ちで開発する
- 4) 論文を書いて公の場で発表する
- 5) 継続して開発の業務に携わる

以上